

高川 正樹 議員（代表質問）

1 富山地方鉄道鉄道線について

- (1) 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討委員会や市民との各地区での意見交換会などで対話を交わしながら、富山地方鉄道鉄道線について議論を進められてきているが、現在の状況について伺う。
- (2) 多様な思い、意見等をいただいた中で、滑川市としての考えはどうか。

2 滑川高校について

- ・ 県立高校の在り方を考える新時代とやまハイスクール構想検討会議での発表を含め、滑川高校の存続に向けて、滑川市としてできることは何か。

3 防災対策について

- (1) 今年度の滑川市総合防災訓練の内容について伺う。
- (2) 洪水ハザードマップの更新はどのようになっているか。

4 滑川産業フェス（仮称）について

- (1) 10月開催に向けた滑川産業フェス（仮称）がどのようなイベントとなるのか、現在の進行状況を伺う。
- (2) 子どもたちが体験できる職は、どのようなものがあるのか。

5 交通安全対策について

- (1) 滑川市内で交通事故の発生が多いと感じている場所はどこか。

吉森 真人 議員（代表質問）

1 子どもたちの安全と福祉、教育現場の環境改善について

(1) 児童手当の受給者を定める児童手当法第4条1項1号には、支給要件が定められており、「児童を監護し、かつ、これと生計を同じくするその父又は母（または未成年後見人）であって、日本国内に住所を有するもの」とされている。同条3項には、「父及び母、未成年後見人並びに父母指定者のうちいずれか二以上の者が当該父及び母の子である児童を監護し、かつ、これと生計を同じくするときは、当該児童は、当該父若しくは母、未成年後見人又は父母指定者のうちいずれか当該児童の生計を維持する程度の高い者によって監護され、かつ、これと生計を同じくするものとみなす」とされている。このことより、ギャンブル依存症による子どもの貧困防止対策について以下のとおり問う。

ア この「児童の生計を維持する程度の高い者」について、その判断は市町村に委ねられているが、本市の場合、どのような基準で受給者を決定しているか（一律に収入の高い方を支給者としているのか）問う。

イ 富山県においても、夫の収入のほうが高く児童手当の支給が夫名義の口座となっている場合が多いと考えられる。例えば、ギャンブル依存症の夫の使い込みにより子どものために児童手当が使われず、妻名義の口座に受給者変更を行う場合、要件を設けているか。設けているとすればどのような要件か問う。

ウ 本市において、離婚もしくは別居等の有無にかかわらず、ギャンブル依存症やDV等保護者（夫婦）間でトラブルがあり、児童手当を収入の低いほうへ変更した、あるいは変更したいなどの相談・変更の実績を問う。

エ ギャンブル依存症により受給者変更を行う場合、離婚の意思表示及び別居による住民票の異動は必須か。またその確認方法について問う。

オ こども家庭庁事務連絡（令和5年5月）では、「受給者が自らの収入や児童手当を専らギャンブル等の児童の生計とは無関係なものに充て、家計や児童の養育についてかえりみないような場合」の対応として、従来の「児童手当Q&A集」に示された取り扱いを参考に、柔軟な対応（受給者変更）を行うよう求めている。背景にDVが併存する場合もあり、別居後離婚成立前の生活再建のスタートアップにおいては極力手続きや両者の接触を避ける必要がある。ギャンブル依存がある場合、同居を継続する場合、別居・離婚手続きを行う場合、DVが併存する場合について、児童手当の受給者変更に必要な書類と手続きを、具体的に市民に伝えるべきではないか。市の見解を問う。

- (2) 教育現場の守りを固める「学校警察連携」と「安全対策」について
- ア 本市における教育委員会と滑川警察署との「学校警察連携制度（包括協定）」の現在の締結状況を問う。また、未導入であるならばその理由と、事案を学校現場だけで抱え込むことによる弊害の認識を問う。
 - イ 市内小中学校におけるいじめの深刻化や不審者対策、SNSに起因する児童生徒間のトラブル及び保護者等からの過度な不当要求（いわゆるモンスターペアレント対応）の現状の認知・発生件数を問う。
 - ウ 複雑化する現場のトラブルに対し、単なる事後報告の連携に留まらず、警察官OBの学校配置など、全県に先駆けて実効性のある「滑川版スクールポリス」的機能を導入し、現場の教職員が「教育」に専念できる環境を構築すべきではないか、見解を問う。
 - エ 即座の防衛策として、全小中学校へ「自動録音機能付き電話機」等を速やかに配置し、悪質な電話や不当な要求から教職員と学校の安全を守る考えはないか、当局の所見を問う。

2 学校施設・設備の安全管理と環境整備について

- (1) 小中学校の体育館へのエアコン整備について
- ア 現在予算化されている中学校2校及び本年度予算化された小学校2校（西部小学校、東部小学校）の最新の進捗状況、並びに入札・工事時期のめどを問う。
 - イ 学校間の平等な教育環境の確保及び今後の物価・資材高騰リスクを見据え、文部科学省の「空調設備整備臨時特例交付金」や総務省の地方財政措置（地方債及び光熱費の普通交付税措置）を最大限活用し、また、過去、普通教室へのエアコン設置や、学校トイレの各階洋式化をわずか1か年で要望が具現化できた過去を活かし、残り5校の「令和9年度一斉導入」を決断する考えはあるか。
- (2) 学校施設の老朽化対策と修繕報告体制の不備について
- ア 保護者やPTA、地域住民から学校へ「施設老朽化による危険」を指摘した際、どのようなルートで教育委員会へ報告され、緊急性が判断されるのか、現状の「報告・連絡体制」を問う。
 - イ 予算不足等の理由から、学校現場が教育委員会に対して必要な修繕要望を出しにくい「忖度（そんたく）」の雰囲気が存在していないか、所見を問う。

ウ 危険箇所が長期間にわたり放置されている現状を教育委員会は把握しているのか。市長の施政方針に掲げる「市民サービスの低下につながる事象への対処」に、子どもたちの安全を脅かす学校施設は含まれているのか、見解を問う。

(3) 体育館の安全確保と2階観覧席等の制限について

ア 市内小学校の体育館における「天窓の不具合」や「2階手すりの老朽化」など、危険を理由とした立入禁止・制限措置の具体的件数を問う。

イ 社会人の競技練習やスポーツ大会等の開催時、普段は制限されている2階観覧席等に保護者や選手が立ち入らざるを得ない実態及び「危険」の掲示すら不十分な現状を把握しているか。子どもの命に関わる不備に対し、即時改善を求めるが所見を問う。

(4) 早月中学校の管理棟（職員室、保健室等）及びふれあいホールのエアコンについて

ア 建築から25年が経過し、集中管理されている早月中学校の管理棟（職員室、保健室等）及びふれあいホールのエアコンに関し、これまでの故障回数と再稼働までに要した期間及び修理方法の現状を問う。

イ 冷暖房の切り替えに専門業者による作業を要する現状において、本年の冷房への切り替えがまだ終わっていない理由及び熱中症対策の観点から今後の切り替え時期を前倒しできないのか、見解を問う。

ウ 今後の酷暑を見据え、教職員の働く環境や保健室等の機能維持に深刻な影響を及ぼす現行の集中管理型空調システムを抜本的に刷新し、個別管理の出来るエアコンへと入れ替える考えはないか、今後の見通しを問う。

3 平野部における鳥害（アオサギ被害）対策について

(1) 柳原・櫛原神社周辺における過去2年間のアオサギの急激な生息数増加の現状及び市民からの問い合わせ・苦情の件数を問う。

(2) 櫛原神社に隣接する学校給食共同調理場（給食センター）、運動公園、総合体育館及びその駐車場など、重要な市有施設におけるふん害や衛生上の苦情・問題の把握状況を問う。

- (3) 私有地ゆえに行政が直接手を下せない法的な限界を理解した上で、被害拡大による市のイメージ失墜や衛生リスクを防ぐため、自ら樹木伐採等を模索している氏子や町内会に対し、市が率先して専門的な対応策を構築し、手を取り合って誘導（技術的伴走支援）していく考えはないか。

4 繰越明許費について

- ・ 件数、金額が多すぎではないか。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 SDGs について

- (1) SDGs 未来都市選定後どのような成果があったのか。
- (2) SDGs 未来都市計画の進捗管理をどのような指標で評価しているのか。
- (3) ゼロカーボンシティ実現に向けた目標達成への進捗状況はどうか。
- (4) SDGs 宣言制度への登録状況はどうか。
- (5) 市長が考える2030年に滑川市のあるべき姿とその実現に向けた最大の課題について問う。

2 部活動の地域移行について

- (1) 地域クラブ活動を担う指導者の確保の状況はどうか。
- (2) 保護者の経済的負担及び送迎負担への対応について問う。
- (3) 希望する競技や文化活動によって参加機会に差が生じないように、どのような環境整備を進めていくのか。
- (4) 地域クラブ活動における安全管理体制について問う。
- (5) 市としてどのような成果指標を設定し、事業効果を検証していくのか。

3 公共施設等総合管理計画について

- (1) 公共施設等総合管理計画策定以降、施設の長寿命化、集約化、統廃合等について、どのような成果が得られたのか。また、現在の進捗状況をどのように評価しているのか。
- (2) 物価高騰や建設資材価格の上昇が施設更新計画に与える影響をどのように分析しているのか。

- (3) 老朽化が進む施設について、優先順位はどのような基準で決定していくのか。
- (4) 市民会館大ホールと市庁舎との複合化についての検討は、いつ結論を出すのか。
- (5) 市民会館大ホールが完成するまで、新川文化ホールで市民優待のコンサート等を企画してはどうか。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 ベイエリアの発展について

- (1) 深層水分水施設管理費（アクアポケット高濃縮水製造装置更新）において当局はこれまで設計内容を見直しながら3回の入札を行ってきたが、それでも落札に至らなかった具体的な要因をどのように分析しているのか。また、当局が想定していた予定価格と、実際の市場価格や事業者側の見積りとの間に、どれほどの乖離があったのか伺う。
- (2) 本事業はアクアポケットの根幹に関わる工事である。万が一、これだけの予算措置を講じたにもかかわらず、次回も応札者が現れない、あるいは再度入札不調に終わる最悪の事態となった場合、現在の高濃縮水の分水・供給機能はいつまで健全に維持できるのか。また、その際に行政として取り得る次の一手（代替案）やリスク管理の備えについてどのように考えているのか伺う。
- (3) 漁業振興事業費（べにずわいがに加工処理施設修繕）について、今回の外壁や屋根、シャッター等の修繕・更新を行うことにより、施設の安全性や作業効率、衛生管理面の向上がどのように図られるのか。また、この修繕等により、今後どれほどの期間、当該施設を安定的に維持・活用できる見込みであるのか、具体的な見通しを伺う。
- (4) 施設のハード面を整えることは急務であるが、これを機に、滑川産ベニズワイガニの付加価値向上やブランド力のさらなる強化、そして次世代の担い手確保に向け、市として今後どのようなソフト面の支援や漁協との連携施策を展開していくのか、中長期的な展望を伺う。
- (5) 滑川蒲鉾跡地横の民地が漁協周辺の景観に影響を与えているように感じるが市の見解は。
- (6) 花火大会において市長自らが「夏の滑川を彩る一大イベントとして多くの方々に楽しんでいただけるよう努める」と明言しているのであれば、その目玉である正三尺玉を特等席で見られる「特別観覧席」を市を挙げてプロモーションすべきではないかと考えるが見解は。
- (7) タラソピア跡地の有効活用のため、物販エリアを新增設することは検討できないか。

2 多様性への配慮と機能性について

- (1) 「選択制ブレザー制服」の導入に向けた実態把握について、前回の答弁にあった「校長会での共有」を経て、具体的に各学校の現場からどのような意見や課題、あるいは潜在的なニーズが報告されたのか、その検討内容の進捗を伺う。
- (2) 学校側の主体的判断を促すためにも、教育委員会が主導して、あるいは各学校と連携して、制服に関する児童・生徒や保護者の意識・ニーズを捉えるためのアンケート調査等の実施を求めたところ検討するとの答弁であったが、どのようなになったのか。
- (3) 現在、市内の中学校における多目的トイレ（車椅子対応）の設置率、及びバリアフリー化の現状について伺う。

高橋 悟 議員（一般質問）

1 見守りGPS購入の補助金について

- ・ 児童用見守りGPS購入の際、保護者への補助金を市から負担できないか。

2 パトロール隊の活動費への助成について

- ・ 児童の登下校時に見守り活動を行うパトロール隊の活動費（隊員の災害保険やユニホーム購入費等）を市から助成することはできないか。

3 放課後児童クラブの送迎ワゴン車購入費の補助金について

- ・ 中加積保育園の送迎ワゴン車は放課後児童クラブにも使われている。送迎ワゴン車を新たに購入する場合の費用の一部を補助できないか。

4 公園の整備及び管理について

- (1) 堀江自然ふれあい広場の樹木及び草の管理がずさんに思われる。整備及び管理の状況を問う。
- (2) 美しヶ丘町内横の街区公園の整備及び管理の状況を問う。

古沢 利之 議員（一般質問）

1 国民健康保険税条例改正について

- (1) 国民健康保険税は地方税法で「目的税」とされていると認識しているが、その認識は間違っているか。
- (2) 今回の改正は「子ども・子育て支援金制度」を新設するためだが、国保税に上乗せすることの合理性、妥当性を見解を問う。
- (3) 「子ども・子育て支援金」は18歳未満の被保険者へ均等割は課税されないとのことだ。一方で、本体部分の保険税の均等割は未就学児童までが半額である。今回に合わせて本体部分の均等割もなくすべきではないか（国に全額負担を求めるべきだ）。

2 「富山地鉄本線」について

- (1) 市長は記者会見等で「意見交換会」への参加者が少ないとされたが、参加促進の取組に反省点はないか。
- (2) 「廃止、廃線」が検討されている地域とそれ以外の地域とで「分断」の懸念はないか。
- (3) 「便益」と「コスト」を示すよう県に求めるとのことだが、どう活かすつもりか。
- (4) アンケートを行うようだが、結果をどう見るのか。「廃止、廃線」に賛成、反対の集約で判断するということか。

3 小学校の学校給食費について

- ・ 非喫食児童への対応はどうするのか。

大浦 豊貴 議員（一般質問）

・ 令和8年度滑川市一般会計補正予算について

- (1) 旧屋内ゲートボール場について、株式会社建工ホールディングスが、屋内遊戯施設及び地域交流施設の再生プロジェクトを開始する計画について経緯や背景を問う。
- (2) 行政財産については、国有財産法や地方自治法で、貸し付けや交換、売り払い、譲与、私権の設定などは行ってはならないと定められており、行政財産のままでは譲与することはできない。普通財産としてであれば一般競争入札や公募型の売却も可能となる。普通財産としては自由度もあるが、議案第30号で財産の無償譲渡及び無償貸付に至った経緯について問う。
- (3) 地域交流施設の詳細を問う。
- (4) 利用者数の見込みを問う。
- (5) 施設運営の収支計画を問う。
- (6) 来年8月に魚津市で開業予定の新川こども施設や市内のスポーツ・健康の森公園、行田公園、子ども図書館、児童館など子どもの居場所の充実は図られるかもしれないが、施設が点在することで需要の低下による利用者の分散化や各施設の維持管理コストに対する効果等について、懸念されることは考えられないか見解を問う。
- (7) 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して、一般家庭及び事業者に対し、水道料金（基本料金・メーター使用料）及び下水道使用料（基本料金）を3か月分減免する。物価高騰対策としては、世帯給付や子育て応援手当、プレミアム付商品券の発行等の支援内容もあるなか、今回水道料金及び下水道使用料の減免に至った経緯について問う。
- (8) 減免対象と減免期間に対する根拠について問う。
- (9) 下水道を接続していない世帯で物価高騰対策支援を受けられない市民との平等性について見解を問う。

- (10) 地域からのガードレール等の交通安全設備要望件数や重点的に設置を要する箇所、老朽化により改修を要する箇所の有無について見解を問う。
- (11) 市道認定に必要な基本的要件を問う。
- (12) 市道栗山月形橋線が、市道路線に認定されている理由と公共性について見解を問う。
- (13) 市道栗山月形橋線防護柵等設置工事における交通安全設備実施に関する優先度について見解を問う。

谷崎 潤一 議員（一般質問）

1 用水路の維持管理について

- ・ 市保有の用水路について
 - ア 市道や線路下暗渠の点検の頻度を伺う。
 - イ 老朽化している用水路の把握はしているのか伺う。
 - ウ 用水路脇所有者不明の樹木などの伐採等は市で対応できないのか伺う。
 - エ 危険箇所や暗渠の清掃は市で対応できないのか伺う。
 - オ 地域住民が通る道に面した用水路の危険箇所に柵などの対策はできないのか伺う。
 - カ 各自治会に用水路や水門の管理清掃などに関する説明会等を開催できないのか伺う。
 - キ 多面的機能支払交付金対象外の地域に、市が作業に応じた報奨金の方式を検討できないか伺う。

2 市内における生活道路・通学路について

- (1) 沖田踏切道拡幅事業による歩道整備について
 - ア 沖田踏切道拡幅工事開始予定日と工事期間・工事内容を伺う。
 - イ 工事期間中、田中新町・幸町の踏切や高架橋を使用する車が増える可能性が予想されるが、カーブミラーの増設や白線の引き直し、転落防止などの対策は検討されているのか伺う。
 - ウ 住民説明会や学校での説明会は開催されたのか、また開催予定なのか伺う。
- (2) 歩道における植樹のない植樹柵や、植樹による舗装の段差や破損に対する修繕の進捗と検討状況を伺う。

安達 真隆 議員（一般質問）

1 消防団の力向上モデル事業について

- (1) 今回作成するPR動画の具体的な企画内容と、どのような層（若者・市内企業者等）をターゲットとして、どのような媒体（YouTube・SNS・地域のイベントなど）で発信していくのか伺う。
- (2) 300万円という巨額の予算を投入する以上、単に動画を作成するだけではいけない。動画作成・発信により、新規入団者を何名増やすか、具体的な数値目標は設定しているのか伺う。
- (3) 本事業は本年度限りの事業なのか。それとも今後、毎年県の補助金を申請し、継続して動画作成や広報活動を行う計画なのか、今後の見解を伺う。また、この補助金は、消防団員に使えるような有意義なメニューはないのか伺う。
- (4) 昨年も、コミュニティバスのラッピングを施工したがあの1台だけの値段なのか。すべて使い切っているのか伺う。

2 除雪管理システム（GPS）導入について

- (1) 本システムの導入により、従来の除雪体制と比較して、具体的にどのような業務効率化が図られるのか。また、稼働データの分析によって、将来的に委託料や燃料費といった除雪事業費全体のコスト削減にどのようにつなげる計画なのか、その算定根拠を伺う。
- (2) 今回導入するシステムは買取りなのか、あるいは長期リース契約なのか、契約形態と期間を伺う。また、次年度以降に毎年発生するシステムの維持管理費やデータ通信料などのランニングコストは幾らになるのか伺う。

- (3) 単に除雪車の位置を把握するだけであればこれほどの高額なシステムは必要ない。契約期間を通じて、稼働時間、除雪ルート、燃料消費量などのデータを市としてどのように分析し、効率的なルート編成や委託料の削減につなげていくのか。また、年間を通じた運用方法について具体的な運用方針を伺う。
- (4) GPSによる除雪車のリアルタイムの稼働状況や、路線の除雪完了、予測など、市ホームページやLINE公式アカウント等を通じて市民に分かりやすく公開し、利便性向上につなげる考えはないのか伺う。

3 デマンド交通よぶマイカーとのる my car の運行体制について

- (1) 5月末時点で登録者数1,103人、利用者数2,579人という大きな実績を得た。市全体の利用者数、地域ごとの利用者数に偏りはあるのか。また、乗合率1.22人の低さはこの数か月で改善されたのか伺う。
- (2) よぶマイカーの利用者が定着しつつある中、日中帯の空き状態のまま走っているのる my car の路線維持は財政の無駄と言わざるを得ない。10月からの第2実証実験においてのる my car の運行本数を減らす、あるいは日中帯を完全にデマンド交通に一本化するなど、踏み込んだ路線再編に向けた具体的な考えはあるのか伺う。
- (3) 3月議会において、朝夕の通勤通学時間帯はのる my car を活用すべきと提言した。10月以降、学生の通学の足をしっかりと確保する一方で、日中帯によぶマイカーの予約が取れないという不満を解消するためにデマンド交通を増やすとしている。運行体制の最適化、役割分担をどのように描いているのか、展望を伺う。
- (4) のる my car (マイカー) とよぶマイカーの名称が似すぎて、市民が混乱している。今後、名称変更は検討できないのか伺う。

水橋 真治 議員（一般質問）

1 子ども・子育て支援金について

- (1) 国民健康保険等の公的医療保険に上乗せして徴収される子ども・子育て支援金制度とはどのような制度なのか伺う。
- (2) 子ども・子育て支援金制度による被保険者の負担増はどの程度か伺う。
- (3) 物価高騰等が家計を直撃しており、さらに住民負担を強いる本制度について、本市として住民にその妥当性をどのように説明するのか。また、住民への説明を徹底し、意見を聴取すべきと考えるが、見解を伺う。
- (4) 本市の単独事業について、一部を廃止または削減することで捻出した財源を税や社会保険料などの住民負担の軽減に充てるべきと考えるが、見解を伺う。

2 要介護・要支援認定について

- (1) 要介護・要支援認定調査の申請から認定までの現状について伺う。
- (2) 要介護・要支援認定が、介護保険法で定めている日数を超過してしまう主な要因は何か伺う。
- (3) 要介護・要支援認定の効率化の必要性について、本市ではどのように考えているのか。
- (4) 要介護・要支援認定の効率化に向けて、本市でできることを検討し、進めていくべきと考えるが、見解を伺う。

3 家庭ごみ有料化について

- (1) 本市の家庭ごみ処理の現状と有料化制度を導入する必要性について伺う。
- (2) 有料化が導入された場合の効果としてどのようなことが考えられるのか。

- (3) 有料化の対象品目、負担軽減措置、世帯負担額の試算について伺う。
- (4) 有料化制度の導入に当たって、住民の意見を踏まえ検討されることは何か。

4 学校教育の充実について

- (1) 2030年度から小学校、2031年度から中学校で、次期学習指導要領に基づいた教育が始まるが、現在の教育との違いは何か伺う。
- (2) 子どもたちが、将来滑川に住みたいと思えるふるさとへの愛着と誇り、感動や感謝の心を育成するために、どのような学習活動を行っているのか伺う。

岩城 晶巳 議員（一般質問）

1 教育について

- (1) 3月議会で中学校の部活動の地域移行は順調に進んでいるとのことだったが、それを踏まえて問う。
 - ア 地域移行されている部活動は。
 - イ 休日だけの地域移行である。平日の部活動での指導者及び責任者はどうなっているのか。
 - ウ 順調に進んでいるとのことだが、部の数を減らして選択肢を狭めているのではないか。
 - エ 協議会などを設けて指導者の人材発掘や後継者を検討していけばどうか。

- (2) 先月、磐越自動車道で高校部活動のバスが移動中、交通事故で部員が亡くなる不幸な事故が発生した。滑川市でも中学校の部活動などでバスを利用することがあると思うが、そこで問う。
 - ア 滑川市では利用するとき、どのような手続きをとるのか。
 - イ 危機管理マニュアルはあるのか。

- (3) 外国人の日本語理解不足の児童・生徒について
 - ア 新学期がスタートして何名程度在籍しているのか。
 - イ どのような支援を行っているのか。

- (4) 学校設備について
 - ア 以前、市内の小中学校で使用禁止の貼り紙が貼られた遊具がいくつかの学校にあったが、どう処理するのか。
 - イ 校内に暴漢用の防具は設置され、訓練はしているのか。
 - ウ 敷地内に防犯カメラなどは設置されているのか。

2 オンデマンド交通実証実験事業について

- ・ 実証実験を始めてから半年近くが経過した。状況を問う。
 - ア この半年間の月別利用状況の推移は。
 - イ 地域的な利用状況に変化があるか。
 - ウ この秋から実証実験が拡充されるがどのようなになるのか。

エ 実証実験はどの程度の期間で行うのか。財政的なことを考えれば、早くオンデマンド交通を軌道に乗せ、のる my car とすみ分けをし、効率のよい運営を行うべきではと思うが。

3 防災について

- ・ 能登半島地震から2年半近くたつが、滑川市の現況を問う。
 - ア 滑川市の復旧状況はどの程度なのか。
 - イ 各地区の避難所の防災備品は準備されていると思うが、管理は誰が担うのか。
 - ウ 富山県は全体的にトイレの不足が言われているが、滑川市はどうなのか。
 - エ 各地区で定期的に避難訓練は行われているのか。
 - オ 自主防災組織が結成されている町内会の防災資機材の配備状況は。

4 食料品減税による影響について

- ・ 政府が目指している2年間限定での食料品の消費税ゼロが実現すれば、滑川市はどの程度の影響があるのか。

藤田 紀子 議員（一般質問）

1 防犯カメラについて

- (1) 現在、日本国内で匿名・流動型犯罪が増加傾向にあり、いつ、どこで強盗殺人事件が発生しても不思議ではない。滑川市内に防犯カメラは何台あるか。
- (2) 小中学校や高等学校、ショッピングセンター、図書館、博物館、交差点、駅周辺等に防犯カメラの設置台数を増やしてはどうか。

2 奨学金制度について

- ・ 大学への進学を希望しても、経済的な理由で進学できない生徒が毎年存在している。そこで、大学卒業後、滑川市で就職、居住することを条件に、滑川市内の低所得世帯や母子世帯で大学に合格した奨学金利用者に対して、無利子・30年ローンで大学の入学金、4年間分の学費を援助、支援できないか。

3 滑川市の広報と同時に配布されるチラシについて

- ・ 滑川市で1か月に一度、月初めに広報と同時に各家庭に配布される講演会や音楽会などのチラシは一読して廃棄される場合も多く、広告費として無駄が多いのではないかという声を市民からよく耳にする。広報以外は回覧板で回覧してはどうか。

4 空き家について

- (1) 現在、滑川市に限らず空き家が急増中である。そして、住むわけでもなく、売るわけでもなく、手入れもされず、ただ放置されている空き家も少なからず見受けられる。そこで、10年以上放置されている空き家所有者に1年に一度、空き家に関するアンケート調査を実施してはどうか。

- (2) 空き家専門の空き家対策課を設置してはどうか。
- (3) 放置された空き家が犯罪組織の拠点や、火災の発生、老朽化し壁面や瓦が台風などで落下し近隣住民にけがをさせたりすることもある。管理不全の空き家の所有者への対策を考えるべきではないか。
- (4) 急増する空き家を1軒でも多く減少させるためにも空き家所有者に空き家を放置させず、必ず賃貸、売却、解体のいずれか選択させるようにしてはどうか。

5 小中学校での交通安全授業と水難事故防止授業について

- (1) 最近、脇道から車道に飛び出す小学生や、車道を2人横並びで自転車走行していて危険な中学生を見かける。そこで、小中学校で1年に各学期1時間ほど交通安全教室を行い、常日頃から児童・生徒に注意喚起してはどうか。
- (2) 毎年、小中学生の水難事故が海や川で発生し、全国で命を落とす児童・生徒がいる。海や川での危険性について専門家を交えてしっかり児童・生徒に説明してはどうか。

6 婚活事業について

- (1) 婚活事業が黒部、魚津、滑川と地域拡大し、効果を上げているようである。そこで、参加者の地域を上市町、立山町、舟橋村、富山市とさらに拡大してはどうか。
- (2) 最近では人生100年時代と言われ、日本人の平均寿命も伸びている中で、婚活事業の参加者を、シニアグループも新たに設けて、40才から60才まで参加できるようにしてはどうか。

上田 昌孝 議員（一般質問）

1 DX GX

- (1) DXの効果は市民に報告せよ。
- (2) GXの具体的な展開は。

2 少子化について

- ・ 理想的な子どもの数は。家族構成は。子どもたちに考えさせよ。

3 教育委員会の人事について

- ・ しょっちゅう変えていては教育行政は形づくれない。教育行政のプロがない。社会ニーズに応えた教育とは何だ。

4 現場課は

- ・ 1日2時間は現場へ出よ。現場が分からなければ真の政策が打てない。

5 市の木材は

- ・ 市の木材の現状は。全調査を。次の市庁舎は木材で。

6 学校給食について

- ・ 地産85%を目指せ。規格外も使え。子ども食堂にも利用。ハウスの助成でそ菜園芸拡大を図れ。

7 “緑”プロを、公園プロを